

関西大学幼稚園

2013 年度学校評価報告書



2014 年 3 月

目 次

2013 年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1 本園の概要	1
2 今年度の教育活動状況	1
3 評価の実施にあたって	2
4 評価の分析	
(1) 食育について	3
(2) 年間行事について	7
(3) 園児募集について	17
学校関係者評価委員会からの評価結果	18
「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	20

【参考資料】

- 資料① 「食育について」に関して
- 資料②-1 2013 年度関西大学幼稚園 実施対象者別アンケート結果比較一覧表
- 資料②-2 2013 年度関西大学幼稚園 学年別保護者アンケート結果一覧表
- 資料③ 関西大学幼稚園 2013 年度保護者対象アンケート

2013年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

関西大学幼稚園 自己点検・評価委員会

1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を精神をじゅうぶんに尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として1951（昭和26）年に開設され、創立63年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適用できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」、「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」、「困難に出会った時、前向きに解決していける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を發揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を超えて守っていかなければならない、と考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、いちょう、せんだん、くぬぎ、かえで、つつじ、つばき、きんもくせいのほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー、木イチゴ等の実のなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなっており、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達をはかるための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「長期ビジョン KU Vision2008-2017 具現化のための長期行動計画」（以下、長期行動計画）を踏まえて、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

2 今年度の教育活動状況

本年度の中期行動計画で掲げた「大学との連携活動の推進」においては、昨年度「おもちつき」と「豆まき」の行事に計7名の外国人留学生に参加してもらい交流を持った。行事への取り組みの後、日本語が全く話せない学生とでも園児が交流を楽しむ姿が見られた。このことから、今年度は関西大学国際部と連携して、園行事に限らず、普段の保育時間内に外国人留学生を招き園児と交流を行った。11月から3月の間に計18回の機会を持ち、延べ65名の外国人留学生が参加し、一緒に遊び昼食を共にするひとときを過ごした。園生活の一部として外国人留学生と触れ合うことにより、自然と外国への興味や関心を持たせ、後の外国語学習への意欲の芽を育てたいと考えている。

「初等部との連携」においては、4月と2月に全教員で初等部の授業を参観し、初等部の特色あ

る教育法への理解を深めている。今後、初等部教員との意見交換の場を持ち、より一層相互理解を深めるために、昨年度作成した「発達段階に合わせた到達目標 確認シート」（本園の子どもの姿）に加え、今年度は保育内容の振り返り作業として、小学校学習指導要領をもとに初等教育と幼児教育の接点を確認したものを作成した。

また、「子育て支援」においては、本園独自の預かり保育への応募者が多く、開設以来抽選を行う状況であったため「希望クラス」を2クラスに増設した。更に「預かり保育」に関する保護者アンケートの結果から、来年度より「希望クラス」の保育時間の延長と、保護者の都合で園児を預かる一般的な預かり保育を実施することにした。

3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、教育的営為を大きく下表のように複数の項目に分類し、3年かけて一巡する取り組みにすることが、学校法人関西大学自己点検・評価委員会（初等中等教育部門員会）において承認されている。また、園児募集については、2013年度の入園予定者が例年になく定員に満たない状況となったため、3年間は評価対象として検証することとしている。

2012年度	2013年度	2014年度
教育の基本方針	食育	保護者への働きかけ
教育内容	年間行事	小学校（初等部）との関連
安全教育		子育て支援
		施設設備
*園児募集	*園児募集	園児募集

2013年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下の通りである。

日付	議題	内容
4月26日(金)	食育について	・保育の中での食育の位置付けを確認・共有
5月10日(金)	食育について	・食育に関する保育の実態を5項目にまとめる (お弁当・給食・おやつ・いただきもの・その他の場面)
6月21日(金)	食育について	・食育の表作成 ・整理・確認・共有
	2012年度評価報告書の改善点について	・園内の草花・樹木について知識を深める ・必須絵本について共有 ・防災訓練の取り組みを保護者に周知（クラス懇談会） ・危機管理マニュアルの完成
	初等部との連携について	・幼稚園の教育内容と初等部の学習内容の繋がりについて考察
6月28日(金)	食育だよりについて	・年6回のテーマを決定
7月29日(月) 30日(火)	アンケート項目の作成	・保護者・教員用アンケート
8月26日(月)	アンケート項目の作成	・保護者・教員用アンケート整理・共有
12月12日(木)	アンケート実施	・締め切り12月17日
12月～1月	アンケート集計・分析	
1月24日(金)	行事について	・健康診断の受診方法の一部変更を確認 ・行事について点検・評価
3月28日(金)	学校関係者評価委員会開催	

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との

間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。

昨年度同様に、保護者全員へのアンケートを12月に配付し、回収率は94.7%であった。

食育においては、2010年に給食・お弁当についての学校評価の一環として実施した保護者アンケート調査の結果から、食育に関する教員の共通理解の向上と保護者に対する情報発信の重要性を感じた。そこで、翌年度からは「食育だより」を年6回発行する等、食育に関して保護者への働きかけに力を注いできた。今年度は、「給食」「弁当」「おやつ」「いただきもの」「その他」の場面において実践している園児と保護者への働きかけを幼稚園教育要領「第二章 健康」と照らし合わせながら全教員で確認し合い、巻末の表（資料①）にまとめた。また、保護者アンケートにおいて、家庭における食生活の実態調査を項目に設けることで、今後の働きかけに役立つものと考えた。

年間行事においては、2011年度より二巡目にあたる。前回の学校評価を活かしているか検証すると共に、2011年度の保護者アンケート結果を受けて改善した行事を中心に、今年度の保護者アンケート項目に加えた。

なお、年間行事については、連絡帳などを通じて保護者から、家庭内で年間行事に対する話題性、浸透性、課題が伝えられることが多い。このため、一つひとつの年間行事についてアンケートをとらず、実態の可視化に重点を置いた構成としている。

4 評価の分析

(1) 食育について

ア お弁当

【現状の説明】

本園は午後保育日を週4回として、そのうち給食を週3回（月・火・金）、お弁当を週1回（木）実施している。給食とお弁当で共通して指導に力を入れていることは、みんなで楽しく美味しく食べるという雰囲気の中で、食事のマナーに気をつけ、食べ物の大切さや感謝の気持ちを持てるように働きかけていることである。食事のマナーは園生活だけで指導できるものではなく、家庭との連携を図り、家庭と園で一貫性を持つことで子どもの習慣となり身につくものと考えている。そのため、食育だよりやクラス懇談会を通して、家庭でも大人がお手本となって食事のマナーを守る大切さや、食に関する知識を伝える等、食生活を見直してもらえよう働きかけている。

お弁当ならではの事柄に関しては、園児にとって親の愛情がこもった手作りのお弁当であるため、親が作ってくれたという嬉しい気持ちや感謝の気持ちを、園児たちが大いに感じることを大切にしている。年少児の保護者に対しては、午後保育が始まる前にクラス懇談会を設け、初めて昼食を経験する際には、給食ではなく慣れ親しんでいる家庭で作ったお弁当を持って来ることで食べることを楽しみに待ち、安心して昼食をとることができるよう配慮していることを伝えている。また、食品そのものへ興味・関心をもつことを大切にしていることから飾りを控えることや、家庭とは異なった環境の中での食事となることを考慮し、食べやすく工夫すること、まずは全部食べられたことが嬉しいと感じられるよう子どもが食べきれぬ量にすること等、お弁当作りで配慮して頂きたいことについて話をしている。

【点検・評価と今後の取り組み】

保護者へのアンケートによると、偏食のある園児のうち「幼稚園で食べられるようになり、家庭

でも食べるようになった」が45.5%、「幼稚園で食べられるようになったが、家庭ではなかなか食べない」が50.6%であった。幼稚園で食べられるようになっているのは、96.1%であり、園児たちが苦手なものも口にしていることがわかる。園では、教員の働きかけも重要だが、園児同士が影響し合っていることも考えられる。園児が苦手なものを食べられたことに自信をもてるよう働きかけ、何度も口にすることでその味に慣れ、家庭でも食べられるように保護者にも引き続き働きかけていく。

また、「幼稚園でとる昼食（給食・お弁当）を通してお子さんがマナーを意識していると感じますか」という質問では、「十分感じる」が29.6%、「感じる」が48.0%、「あまり感じない」が22.3%であった。教員用アンケート「幼稚園でとる昼食（給食・お弁当）において、マナーを守り残さずきれいに食べるように指導していますか」という質問では「常に指導している」が100.0%であったことから“マナー”という記述に保護者と教員がイメージするものに違いがあったのではないかと推測する。本園が重視する“マナー”とは「残さずきれいに食べること」等であり、今後のアンケート設問では、具体的に記述することで意思の統一がはかれるよう改善したい。また、この結果を真摯に受け止め、保護者が求めているであろう“マナー＝お行儀よく食べる”ことにもより力を入れて保護者と連携しながら指導していく。

お弁当は「とても楽しみにしている」が73.7%、「楽しみにしている」が24.0%であり、ほとんどの園児たちがお母さんのお弁当を楽しみにしていることがわかる。2010年度学校評価報告書と比較すると「とても楽しみにしている」が69.1%から上昇した。お弁当の栄養のバランスや色どりについて「十分意識して作っている」が34.1%、「意識するようにしている」が61.5%であり、「十分意識して作っている」が22.0%から上昇した。2010年度学校評価の反省を受けて「食育だより」を作成・発行を続けていることの効果が出てきているものと推察できる。一方、教員用アンケートにおいて「お弁当は栄養のバランスなどを考えて作るように保護者に働きかけていますか」という質問では、「十分働きかけている」が42.9%であった。今後はお弁当の話題をテーマに加えるなど、食育だよりの活用法を工夫するようにする。

イ 給食

【現状の説明】

年中・年長児は4月から週4回の午後保育のうちの週3回（月・火・金）を給食日とし、年少児は園生活に慣れてきた5月半ばに週1回の給食から始め6月から週2回、7月からは年中・年長児と同じく週3回を給食日としている。

本園の給食は関西大学生生活協同組合飲食事業部と連携し、栄養バランスはもちろん園児が様々な食材を食べられるように考え、温かいご飯やお味噌汁、おかずを提供している。また、配膳形式を取り入れていることにより、教員が園児ひとり一人の食べる量に合わせてお茶碗やお皿に盛り付けている。季節によって筍ご飯やさつまいもご飯、芋栗ご飯等、旬の食材を使った炊き込みご飯にし、野菜をたくさん食べられるように具たくさん味噌汁や、切干大根、ひじきの煮物等のおかずを取り入れている。調理方法や献立等については栄養士と話し合いの時間を設け、新しい献立は教員で試食し検討している。また、園と栄養士との「連絡ノート」を活用し日々の給食について教員からの意見や要望、園児の反応を伝えている。

教員は給食の時間に、旬の食べ物や野菜の働き、栄養について話をし園児が食べ物に興味関心が持てるように心がけている。また、お茶碗を持って食べることやご飯粒をお茶碗に残さないこと、

最後まで座って食べること、食べ終わった食器は自分で片付けること等、マナーの指導にも力を入れ園児が自分で意識できるよう働きかけている。偏食や少食、アレルギーのある園児には、ひとり一人の状態を把握し個別に対応している。

保護者には2年に1度「給食試食会」を開き、園児と同じ献立を食べる機会を設けている。また、2011年度より食育だより「いただきます」（年6回）を発行し、食に関する園での取り組みや大切にしていること等、子どもの食生活について理解を深められるようにしている。

【点検・評価と今後の取り組み】

給食は「とても楽しみにしている」が50.8%、「楽しみにしている」が41.3%であり、多くの園児が幼稚園の給食を楽しみにしていることがわかる。今年度は新たに「いわしの梅煮」や「つくね煮」を取り入れたが、今後も飲食事業部と連携し、栄養バランスや園児が食べやすい献立を取り入れていきたい。

ウ おやつ

【現状の説明】

おやつといっても市販のものではなく、年長児が作る手作りのクッキーやお月見団子、野焼き芋等、季節や行事を意識した昔ながらの素朴な物をおやつとし、その材料はできるだけ安全なものを用意している。

年間を通して計画している「おやつの日」の取り組みにおいては、園児が食べる楽しみと共に、「食べることの大切さ」「みんなで食べる楽しさ」「作ることの喜び」「作ってくれる人への感謝の気持ち」「素朴なものを味わうことの大切さ」等について関心が持てるように働きかけ、日本の文化や風習にも興味を持たせるようにしている。家庭でも季節や行事に興味や関心を持ち、日々の暮らしの中で楽しめるよう、保護者には「えんだより」、「食育だより」、「学年だより」等を通して伝えている。

【点検・評価と今後の取り組み】

本園のおやつは素朴でささやかなものであるが、おやつを食べている園児の様子は、みんなで食べる楽しさや嬉しさがプラスされ「おやつの日」として定着している。また、おやつを実際に頂くことで行事の意味や風習を園児はより身近に感じることが出来ている。保護者アンケートの「お子さんは幼稚園でおやつを食べること、あるいは作ることを楽しみにしていますか。」という質問では、ほぼ全員の園児がおやつを食べること、作ることを楽しみにしていることがわかる。年長児はおやつを作る喜びや楽しさを体験し、年少・年中児に届ける嬉しさを重ねていく中で、年長児であることの自信と充実感を確かなものとしており、適切な取り組みとなっている。

園では季節や行事を意識したおやつにしているが、家庭でのおよつ傾向を保護者アンケートで尋ねることにした。「主にどのようなものをおやつにしていますか。」という質問の結果（別表①）から、「果物」「洋菓子」「和菓子」「スナック菓子」の順で上位を示した。また、その他の欄に「うどん」「おにぎり」「すめめ」「煮干し」等の腹持ちの良い物や素朴な物の記載があった。様々な種類のおやつを手軽に買える環境の中、成長段階の子どもたちにとって添加物が少なく安心できるものを選んでいく家庭もあるが、更におやつについて保護者に関心を持ってもらえるよう「食育だより」に織り込んでいくことにする。

(別表①)

	全体	年少	年中	年長
洋菓子	18.6%	14.3%	18.0%	22.6%
和菓子	11.5%	9.5%	11.5%	13.2%
スナック菓子	10.6%	11.9%	10.7%	9.4%
チョコレート	4.8%	3.6%	4.9%	5.7%
ガム	0.3%	1.2%	0%	0%
飴	3.5%	3.6%	4.1%	2.8%
グミ	3.5%	3.6%	5.7%	0.9%
手作りのもの	8.0%	14.3%	5.7%	5.7%
果物	21.8%	21.4%	22.1%	21.7%
牛乳やジュース等の飲み物	6.7%	4.8%	8.2%	6.6%
その他	10.6%	11.9%	9.0%	11.3%
	マシュマロ、せんべい、チーズ、ドライフルーツ、焼き芋、菓子パン、クラッカー、すめ、おしゃぶりこんぶ、肝油、おにぎり、野菜の素焼き、おもち、うどん、ラムネ、かりんとう、煮干し、豆乳			

エ いただきもの

【現状の説明】

本園では、在園児の保護者やその祖父母、また卒園児の保護者から四季折々の野菜や果物を頂戴することが非常に多い。いただきものは、全クラスや学年等で分けあって頂いている。園児たちへと届けてくださる気持ちは大変有難く、担任は届けてくださった方のことやその気持ちを園児に伝え、感謝の気持ちを持って頂けるよう働きかけている。いただきものは、籠に入れ園児たちが興味を持てるように見える所に置き、調理が必要なもの以外は安全に十分注意したうえで、担任が園児の前で皮を剥いたり切り分けることで、切った時の音や匂い等に関心を持たせるようにしている。

冬には無農薬のみかんをたくさん頂戴することがあり、頂いた後は皮を天日干しにし、外遊びの後等にみかん湯を楽しんでいる。

また、近年食物アレルギーを持つ子どもが増えているので、未摂取物の有無については十分に注意している。

【点検・評価と今後の取り組み】

今年度も季節の果物等をたくさん頂いた。中には^{いがぐり}毬栗や干し柿、^{ばんべいゆ}晩白柚等なかなか目にするのができないものを頂戴し、果物の自然な姿や様々な食べ方等を園児たちに知らせることができた。同じ野菜や果物でも名前や味、色や形が違うものを頂くこともあり、園児たちは五感を使ってその物を感じ、「種がある。」「すっぱくない。」「味が違う。」等と言葉で表現していることから、園児なりに違いを感じ、様々な品種があることを知る機会となっていることが分かる。

いただきものを園児たちに知らせる際には、誰から頂いたものかを必ず伝えているが、保護者へのアンケート調査において「祖父母の方などが育てられた野菜や果物を園児にいただくことができますが、その話を聞いたことがありますか。」という質問において年少の回答は「よく聞いた」が32.7%と少なく、「聞いたことがある」が57.1%と半数を超えていた。しかし「お子さんから幼稚園にある実のなる木の話あるいはそれを食べたことの話聞いたことがありますか。」という質問では「よく聞いた」が67.3%であった。このことから、年少児は季節の野菜や果物を口にしたことは伝えることができても、誰から頂いたかについては伝えることがむずかしい年齢であることが

推測され、教員が保護者に伝える必要があると考察できる。年中、年長児は語彙数も増え、詳細に話もできるようになり「よく聞いた」の回答が年中 63.7%、年長 64.5%であった。今後もいただきものを通して季節の収穫物や産地を知ること、届けてくださった方の温かい気持ちや人のつながり等、園児にわかりやすく伝えるようにする。

オ その他の場面

【現状の説明】

朝の集まり・帰りの集まりの際、短い時間ではあるが、食べることの大切さや季節の行事食について話すことで、食を通して季節感やその行事に興味を持てるようにしている。

年長児の取り組みとして、トマト、さつまいもを栽培している。野菜の成長を観察することで育てることや収穫することの喜び、食べることや食べ物への意識を育てている。年少・年中児には教員が年長児の活動を伝え、育っていく過程を見に行くことで興味や関心を持たせ、変化に気づけるようにしている。収穫したトマトは年長児が年少・年中児にも届け、さつまいもは年長児が秋に掘り出し、園庭で野焼き芋にして全園児で食べている。

園内にはジュンベリー、木いちご、ブルーベリー、もも、ざくろ、うめ、冬みかん、柿、イチヨウ（ぎんなん）等の実のなる木があり、四季折々に花が咲き、実がなっていく様子を観察して、収穫を楽しみにしている。実がなると年中・年長児が収穫し、全園児で分け合って食べている。

【点検・評価と今後の取り組み】

保護者へのアンケート調査によると、「幼稚園あるいは家庭で、野菜を育てることによってお子さんが野菜に興味を持ったと思いますか。」という質問では、「強くそう思う」が 48.0%、「そう思う」が 43.6%であった。そのなかでも年長児の保護者はこの合計が 100%であることから、野菜を育てていく過程で花の咲き方や実のなり方に自ら気づいたり、興味や関心を持つようになっていることがわかる。

実のなる木の話については、2012 年度に行ったアンケートの「四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが実際に目にすることを大切にしていますが、お子さんからその様子を聞いたことがありますか？」という質問では園児から「よく聞いた」が 69.7%、「聞いたことがある」が 27.7%であるのに対し、今年度の「お子さんから実のなる木の話あるいはそれを食べたことの話聞いたことがありますか。」という質問では、「よく聞いた」が 68.2%、「聞いたことがある」が 27.9%と、「よく聞いた」の回答が昨年よりわずかに減少している。学年ごとの回答結果から、「よく聞いた」と答えた年少児の保護者が 2012 年度の 77.3%から今年度は 67.3%に減少していることがわかった。園内の散策で年少児がより興味、関心を持てるように教員は工夫して働きかけるようにする。

（２）年間行事について

本園での年間行事の位置づけは、行事を通した集団内の「個の育ち」を見失うことなく、成長に働きかける適切な指導を実践する、としており、重要な教育活動のひとつである。

本園においては、「行事」を実施するうえで個々の「行事」をその場限りの取り組みとせず、すべての行事を通して子どもの育ちを豊かにすることを目的として、全教員が意識を共有して取り組んでいる。

今年度の自己点検・評価においては、2011 年度のアンケート結果をもとに、改善状況の把握が必

要なものに焦点を当てて、アンケート項目に盛り込むことにした。

ア 進級式について

【現状の説明】

進級式は、年中・年長組となった園児が進級した喜びを味わえ、保護者にも出席してもらい共に園児の進級を祝い、成長を喜び合えるよう心掛けている。教員からのお祝いの思いを込めて行っている人形劇では、子どもの成長や新しいことに向かっていく自立の意味が込められた話を選んでいく。

教員が年中児に対しては、この日から担任が変わりクラスの集団が大きくなる年中児に、新しい環境に対する不安や戸惑いを感じさせないように、一人ひとりの様子をしっかりと受け止め安心して過ごせるよう配慮している。年長児に対しては、憧れの年長組になった気持ちを大切に育み、自覚を持てるよう働きかけている。また、2011年度学校評価における保護者アンケートの結果（「お子さんの一年間の成長に喜びを感じることができましたか」という質問に対してA評価「大変感じることができた」76.3%、B評価「感じることができた」17.5%）を踏まえ、評価「あまり感じられなかった」3.4%（D評価「まったく感じることが出来なかった」0.0%）であったことに着目してきた。この結果を踏まえ、2012年度より式終了後、保育室で保護者も交えて降園まで過ごしており、保育室では園児が話を聞く姿勢や歌う姿を通して、保護者に園児の成長や、進級した喜びを感じてもらえるように心掛けている。

【点検・評価と今後の取り組み】

年中児の保護者は実際に保育室の様子を目にすることにより、環境の変化や集団の大きさを感じ、園児の不安や戸惑いの気持ちを共感してもらえるようになった。年長児の保護者には、あこがれの年長組になった園児の楽しみな気持ちを園児の発言を聞いたり、表情を目にすることで感じてもらえている。以前の進級式だけの参加より、保育室で親子で一緒に過ごし、実際に園児の姿を目にすることで一年間の成長を感じてもらえるようにしてきた。しかし、保護者のアンケート結果によると、2011年度学校評価アンケート結果よりもA評価の数値が9.6ポイント下がっていた（B評価は14.2ポイント上昇）。他方、C評価は2.6ポイント減少していることが確認できた。

クラスが変わる、担任が変わるなどの環境の変化により、園児によっては戸惑う姿が見られ、保護者は成長よりも心配な気持ちのほうが強くなったり、保育室で過ごすことで身近に他の園児の姿を目にし、我が子と比較して見てしまい不安な気持ちに傾いたのではないかと推測される。今回のアンケート結果を真摯に受け止め、教員は園児の不安な気持ちを受け止めるだけでなく、保護者の気持ちに寄り添い、園児の成長を感じてもらえるよう努めていく。

イ 入園式について

【現状の説明】

新入園児の親子を教員が保育室で迎え、初めての環境で園児が不安な気持ちにならないよう親子で手をつないでホールへ移動し、親子一緒に座って式を行っている。年長児による新入園児に向けての呼びかけや、年中・年長児・新入園児の親子の歌で入園を祝っている。式後の保育室では、教員がテーブル人形劇をお祝いの気持ちを込めて行い、年長児が手作りのペンダントを新入園児一人ひとりにプレゼントしている。年中・年長児は入園式に参加することで新入園児を迎えることを実感し、自分がしてもらった経験を思い出し、優しい気持ちで新入園児に関われるよう働きかけてい

る。また、生まれて初めて経験する雰囲気戸惑う子どもの姿は当たり前のことであるが、親が一緒でありながら泣き止ませられなかったり、じっとさせられなかったりすることで、親自身が入園する喜びより心配や不安が大きくなるようである。このような現状を踏まえて教員は親子が安心できる雰囲気作りや声掛けを心掛けている。

ウ 5月の節句について

【現状の説明】

5月の節句は端午の節句とも呼ばれ、子どもの健やかな成長を願い祝う日本の伝統的な行事である。5月5日が「こどもの日」と制定されているが、新学期が始まって間もない時期であるので、七夕まつりや雛まつりのように全園児による集会を持つことはしていない。しかし、それぞれの学年で子どもの発達段階に合わせて端午の節句の由来や昔から伝わる風習に関心が持てるよう工夫した取り組みを行っている。具体的には各クラスに菖蒲の花を飾ることで、鋭くとがった葉や菖蒲湯の話や鯉のぼりやかぶとを制作したり、金太郎の素話や歌を歌うなどの取り組みを行っている。いずれも普段の園生活の中に自然な形で組み込み保育室の環境あるいは制作活動、更に教員の話などを通して端午の節句を身近に感じ、園児自身も無事に大きくなれたことに感謝できる機会となるように考えている。

年長児はクラスの取り組みとして約1か月かけて全長3.6mの鯉のぼりを作り上げている。年少・年中児はその様子を教員や園児同士の関わりの中で見聞きし、出来上がるのを楽しみに待っている。出来上がった鯉のぼりは全園児が見守る中、揚げ初めを行い、その後園児の健やかな成長を願うものとして6月半ばまで、年長児の当番が毎日揚げるようにしている。また、進級式、入園式、卒園式といったお祝いの日にも揚げている。年長児はクラスの取り組みとしての鯉のぼり作りの他に、個人制作としてかぶとを折っている。折り紙のかぶとや実際に自分の頭にかぶれるかぶとを作り家庭に持ち帰っている。年中児は個人制作として鯉のぼり作りを楽しみ、同じく家庭に持ち帰っている。

【点検・評価と今後の取り組み】

2011年度の教員へのアンケート結果から、新年度が始まって間もない時期の行事であるため教員自身が取り組みへの意識が薄いことがわかった。そこで話し合いを持ち翌年には年間行事の一つとして、各クラスでしっかりと取り組みができるように心がけてきた。保護者にも園児の姿を通して園での取り組みを伝え、更に家庭でも端午の節句を機会に子どもの健やかな成長を喜ぶ機会にしてもらえるように働きかけた。また、制作したものを持ち帰ることで家庭でも端午の節句について話題提供でき、興味や関心が広がればと考え、年長児はかぶとを、年中児は個人制作として鯉のぼりを作り持ち帰るようにした。

その結果、2011年度保護者アンケートの「家庭で端午の節句を意識して過ごされていますか」という質問においてA「十分意識して過ごしている」が29.1%、B「まあまあ意識して過ごしている」が59.4%だったのに対し、今回はA40.2%、B44.7%になっている。以上のことから保護者の意識が以前に比べて随分高まったと言える。

エ 健康診断について

【現状の説明】

5月に内科と歯科の医師に来園してもらい、身長・体重・座高の測定、問診、内科、歯科、尿検査、視力・聴力検査（年長児のみ。年少・年中児は5月中に各クラスで行う）を実施している。年少・年中児は不安感なく診てもらえるように、保護者と一緒に受診している。年長児は保護者同伴にせず（同伴も可）、教員の指示に従って受診している。ホール内では静かに順番を待ち受診することを、園児にも保護者にも伝えている。健康診断後には担任が「けんこうのきろく」に目を通し、園児の健康状態を把握するように努めている。

しかし現代は、入園以前にかかりつけの医師に診てもらっていることが多く、園で行う健康診断で病気が見つかるということはほとんどない。

【点検・評価と今後の取り組み】

園で行う健康診断で病気が見つかるということがほとんどないという現状を踏まえ、病気を見つけるという「検診」ではなく、園児の健康を確認する「健診」を保育の一環として行うという認識のもとに、2014（平成26）年度より、年中児も年長児と同様に保護者同伴はせず、（同伴も可）教員の指示に従って受診させることにした。「健診」を保育の一部として行うという認識を深めていくことで手洗い・うがい・歯磨き・食事・睡眠等、普段の生活習慣に話題を広げ、園児とは健康な身体作りについて話し合い、保護者には園児の様子や教員の働きかけを伝えることで、「子どもの健康」について園と家庭で共に考える機会としていく。

オ 七夕について

【現状の説明】

七夕の話は、絵本や素話を通して園児にわかりやすく由来を伝え、7月7日に向けての数日間、七夕飾りや短冊を作り、七夕の日を楽しみにできるようにしている。また、笹飾りは各学年で子どもの発達に応じたものを考え、計画的に取り組んでいる。年少児にとっては入園してから初めての制作となるため、一斉に取り組みせず、少人数を教員のそばに集めて制作させている。年中・年長児は作った日にそのつど持ち帰り、年少児は「七夕まつり」の前日に持ち帰るようにしている。また、集会で飾る大きな笹には全園児で笹飾りをつけるが、その竹は年長児が大学構内の竹林から運んでいる。家庭でも笹飾りを楽しんでもらえるよう保護者に笹を提供しているが、希望者が多いことから、七夕への関心の深さがうかがえる。7月7日の「七夕まつり」の集会では、歌を歌い、コーラス部の保護者による歌を聞き、人形劇部の保護者による「たなばた」の人形劇を見て過ごしている。

カ 夏の夜のつどいについて

【現状の説明】

一学期の終業式を終えて降園した後、自由参加という形で年長児の取り組みとして行っているが、毎年、年長児全員が参加を希望している。希望者は、15時30分に再度登園し20時30分まで、日が暮れていく幼稚園でいつもとは違う雰囲気を楽しみながら友だちと一緒に過ごしている。プールで遊び、おやつにスイカを食べ、教員による人形劇「たべられたやまんば」を見て、初めて幼稚園で夕食を食べる、その後、園庭に出て関西大学の学生によるジャグリングを見せてもらい、火を囲

んでファイヤーストームを行う。火の話聞き、歌を歌い、ゲームや踊りを楽しみ、最後に嘖き上げ花火を見た後、感謝の気持ちを込めて、静かに火を消しファイヤーストームを終える。その後、クラスごとに薄暗い園内を散歩し、いつもと違う夜の幼稚園を体験している。お土産として午前中に自分で作ったクッキーを、事前に制作した手提げの入れ物に入れて持ち帰っている。また、教員は当日のいつにない気持ちの高ぶりが、はしゃいだり、落ち着きのなさとなって現れることを予想し、怪我や事故につながらないように配慮し取り組んでいる。

キ お月見について

【現状の説明】

十五夜は中秋の名月とも呼ばれ、一年で一番月がきれいに見える。十五夜に月を眺め、米や野菜等の農作物が収穫できたことを感謝し、ススキや団子をお供えしてお月見を行ってきた日本の昔の風習を園児にわかりやすく伝えている。十五夜だけではなく月がきれいに見える季節であるため、園児が月を身近に感じ興味がもてるように、普段から月の話をし、歌や手遊びを楽しんでいる。十五夜の日には年長児がお月見団子を作り、年長組の保育室に年少・年中児を招待し団子をふるまっている。また、年少・年中児は粘土で団子を作り、秋の花やススキと共にお供えしてお月見に関心を持たせている。

【点検・評価と今後の取り組み】

保護者からは、空を見上げ月の満ち欠けを楽しんでいる園児の様子や、園児からは家庭でお月見をした話を聞くことが多いことから、園での出来事や教員から聞いた話を、園児が保護者に伝え、家庭でも実践していることがうかがえる。

ク 運動会について

【現状の説明】

本園では運動会というものを練習を重ね発表する場ではなく、普段の運動遊びの延長線上にあるものと考えている。戸外遊びに適した10月を運動月間とし、毎日「運動会ごっこ」と称して体育遊びや集団遊びを楽しむようにしている。運動会ごっこを楽しむ中で園児たちが身体を動かす心地よさを体感し、友だちと一緒に頑張り、応援することの大切さに気づき、ルールを守ることができるよう働きかけている。保護者には10月中頃に年少・年中組は1日、年長組は2日間の参観日を設けている。運動会を特別なものとせず普段の園児の姿を見てもらうことを目的としており、教員は普段の園児の遊びや興味の在り所に焦点を当て、園生活からかけ離れたものにならないように考慮しプログラムを考えている。また、親子で楽しめる種目を取り入れることで、保護者に園児の姿や成長を感じてもらえるようにしている。参観日には、保護者に手作りのペンダントを用意してもらい、園児にプレゼントすることで楽しかった喜びを分かちあえるようにしている。

ケ 園外保育（年中・年長）について

【現状の説明】

目的地に出かける際に園児の負担が少なく、かつ自然の中で楽しめる場所として年中組は千里南公園、年長組は万博記念公園自然文化園を選んでいる。園児がその場所に慣れ安心して遊べ、季節の違いを感じられるよう春と秋の年2回同じ場所に出かけている。年中児の春の園外保育では、ク

ラス替えを行い環境の変化に慣れていない時期であるため、お弁当は持たずに園に戻ってから給食を食べている。クラスに慣れ子ども同士の関わりが深まる秋には、お弁当をもって出かけている。年長児はクラス替えを行わないため大きな環境の変化はなく、体力もつき長距離を歩けるので、春、秋ともにお弁当を持ち、広い公園内を散歩し自然の中でたっぷり過ごすようにしている。また、本園では集団通園をしているため、普段から公共のマナーや交通ルールを守れるように指導を行っているが、通園時より子どもの集団が大きくなるため、教員は更に細心の注意を払って引率している。園外保育の計画にあたっては毎年同じ場所へ出かけるが、その年度の子どもたちの状態に合わせた活動内容や、時間配分、安全面への配慮等、必ず下見に行き綿密な打ち合わせを行っている。

コ 親子遠足（年少）について

【現状の説明】

年少児にとって初めての園外保育となるため、園生活に慣れ安心して過ごせるようになった11月に保護者と一緒に出かけている。遊具のない広場で親子で遊び、季節を感じながら散策することで親子のやりとりを楽しむ一つの良い機会になるよう、事前にクラス懇談会で保護者に伝えている。当日は親子での触れ合い遊びをしたり、散策の際には教員が園児の姿を捉え保護者に話をすることで、親子のやりとりを楽しむきっかけになるよう働きかけている。

【点検・評価と今後の取り組み】

親子で楽しく過ごしてもらえることに重点を置いた親子遠足であるが、2011年度の自己点検・評価においては、私語の多い保護者の態度から「年少だより」の発信だけではその主旨が保護者に十分理解されていないのではないかと反省があった。そのため教員は、クラス懇談会において、我が子へ目を向けることの楽しさや親子遠足の目的を伝えた結果、親同士の私語が減り、親子でのやり取りを楽しむ姿がたくさん見られるようになっている。

サ お芋掘り（年長児）について

【現状の説明】

園内の畑に年長児が6月にさつまいもの苗を植え、水をやり、世話をして育てている。年少・年中児にもできる作業ではあるが、本園ではあえてさせず、年長児の取り組みとしている。そのことについて、年少・年中児の保護者に理解を得るため、年長児の姿を見て憧れの気持ちを持つことや楽しみに待つことの喜びや大切さを伝えている。年長児のみならず年少・年中児もさつまいもの苗が根付く様子や葉が茂っていく様子を観察しながら、収穫の日を楽しみにできるようにしている。お芋掘り当日は、年少・年中児が見守る中、年長児がさつまいものつるを引っ張り、素手で土を掘り、大切にお芋を掘り出す。友だちと一緒に力を合わせて掘り、見ている年少・年中児に掘ったお芋を見せに行き、収穫の喜びをみんなで味わっている。

【点検・評価と今後の取り組み】

園外に芋掘りに出かけるのではなく園内に畑を設け、園児の手で苗を植え、育て、収穫するという過程を体験する大切さを伝えると共に、園内に畑がある利点を生かし全園的な取り組みであることを保護者に伝えることに努めている。

過去6年は天候の影響等で苗がうまく育たず、年々収穫量が減少しているため、新しい土を補充したり肥料を入れる等、より多く収穫するための方策を検討する。

シ 野焼き芋について

【現状の説明】

10月下旬に年長児が収穫したさつまいもを秋が深まる11月半ば、園庭で野焼き芋にして全園児で食べている。芋をたわしで洗い、アルミホイルで包む下準備と、園庭や裏山で落ち葉や枯れ枝を拾い集める焚き火の用意を年長児が行い、全園児が揃ったところで火を熾しその中で芋を焼いている。収穫の喜びと共に、収穫物を自分たちで調理する手伝いをし、みんなで頂く経験は、収穫物や育てたり調理した人への感謝の気持ちを育てていくものと考え取り組んでいる。深まる秋の空の下、焚き火の炎を見て、煙の匂いをかぎ、焼き芋が出来上がるのを楽しみに待つ。焚き火の様子を眺めながら焼き芋ができるまでの間、園児の興味や関心を保ち続けられるよう教員は配慮や指導をしている。出来たての焼き芋を手にとり美味しそうな匂い、温かさや色、湯気の様子を感じながら園庭でみんなで分け合って食べる。教員は多くの人の手によって野焼き芋が食べられることを伝えることに努めている。

ス 休日参観について

【現状の説明】

すべての行事において、取り組みの前後には必ず研究会で確認及び改善に向けての振り返り作業を行っている。2011年度の研究会において話し合った結果、普段の登園日には足を運ばない保護者のために休日に参観する日を設けている休日参観であるため、親子で楽しく過ごす時間をこれまでより長く持つことができるように変更した。年中・年長組においては、「朝の集まり」から「帰りの集まり」まで親子で一緒に過ごしてもらうことで生活面（持ち物の片づけ、挨拶、着替え等）を含め友だちとの関わりなども見てもらうことができると考えている。初めて幼稚園生活を送っている年少児の保護者にはこれまでと同じようにホールでスライドを見ながら園長の話を聞き、園生活を通して子どもとの関わり方や子育てについて考えてもらう機会にしている。年長組では、集団生活の中での年長児としての成長の姿を参観してもらうことを目的とした取り組みを昨年度より行っている。園児たちが自分で取り組みたい出し物を決めて園児同士で稽古をして当日を迎える。年中児は5人～6人で歌を歌い保護者に聞いてもらう機会とし、集団の中の一員として園生活を送る園児の姿を見てもらえるようにしている。また、その後親子で制作活動を楽しむようにしている。年少児については2012年度、2013年度と保護者がホールで話を聞いている間はいつものように保育室で過ごし、後にホールへ移動して親子一緒に体を動かして楽しむ機会を設けている。

【点検・評価と今後の取り組み】

休日参観ということで普段なかなか幼稚園に足を運ぶことができない父親の姿が多く見られ、いつもとは違った雰囲気の中の参観となる。そこで教員は和やかな雰囲気づくりを心がけ、親も子も楽しめるよう意識して保育を進めた。その結果、どの学年も園児がうれしい気持ちを素直に表現し、落ち着いて親子で楽しいひと時を過ごした。また、年長組の取り組みでは、保育室に大勢の大人が入ることになるが、お客様として椅子に座ってもらっているので園児たちは緊張の中にも張り切って取り組む姿を見せ、やり遂げた充実感は自信につながるものであった。

保護者アンケートにおいて「休日参観は楽しめる内容でしたか」という質問に対して2011年度の結果では「十分楽しめる内容であった」が63.4%、「楽しめる内容であった」が34.7%と回答していたが、今回の保護者アンケートでは「十分楽しめる内容だった」が70.5%、「楽しめる内容だ

った」が 29.5%と回答しており、内容・環境が充実した結果であるといえる。

セ お餅つきについて

【現状の説明】

地域や家庭で行われることが少なくなっているお餅つきを、12月の始めに園庭で火を焚き、せいろで餅米を蒸し、石臼と杵で餅つきを行っている。日本の伝統行事について知ることは園児にとって貴重な経験になっている。前日の餅米洗い、石臼・杵等の諸準備から当日のつき手の協力、後片付けに至るまで役員（保護者会）の協力で行っている。普段は目にしない用具について知らせる等、正月を迎えるための日本の伝統文化を伝えている。年長児は子ども用の杵でお餅をつく経験をし、年少・年中児はその様子を見て憧れの気持ちを持てるようにしている。餅米を蒸す匂い、お餅をつく音等、昔ながらの方法でお餅が出来上がる場所を実際に見たり、年長児は体験しながら匂い、音、温かさ等五感を働かせていることが園児の発言からわかる。つきたてのお餅は温かいうちに園庭のベンチに座って食べている。また、教員はお餅つきが多くの協力者によって楽しむことができていることを園児に伝え、感謝の気持ちを持てるようにしている。

ソ おみせやさんごっこ（年長児）について

【現状の説明】

年長児のクラス全体の取り組みとして、12月上旬に行っている。年長児は普段の遊びや、自分が年少・年中児の時にお店屋さんを招待されて一緒に遊んだ経験を生かし取り組んでいる。教員は年長児が主体的にアイデアを出し、品物作りをし、話し合っ店主を決める等、意欲的に取り組めるように指導している。また、年長児同士、あるいは年少・年中児を招いてお店やさんごっこを楽しむ機会を持つことで、クラスの枠を超えてごっこ遊びを楽しんでいる。自分が楽しむことだけでなく年少・年中児を招待して店主となって対応する姿からは、年長児としての自信や優しさが感じられる。年長児の保護者はお店やさんごっこに参加し、園児とのやり取りを通して子どもの遊びの世界を身近に感じてもらっている。そして、楽しさを共有することで園児（子どもの成長）への理解を深める機会になるよう、取り組みの過程や園児の姿をクラス懇談会で伝えている。

タ 冬のつどいについて

【現状の説明】

冬至を知り、太陽への感謝の気持ちや、これから厳しくなっていく寒い冬を元気に過ごせるようにとの願いを持って行っている。ホールには大きなモミの木を飾り、冬の間も葉を落とさない青々とした木（常緑樹）があることを伝え、教員による影絵「あまのいわと」を見せている。集会の後は年長児手作りのなんきん入りクッキーを食べ、冬至なんきんについて伝えている。その後、年長児は大学構内へ散歩に出かけ、年少・年中児は園内を散歩したり園庭で遊ぶことで、冬の寒さや太陽の温かさが感じられるようにしている。教員は集会を行う日だけでなく、寒い季節に入ると防寒着や身体を温める食べ物のお話を話題にし、園児が園生活の中で冬を感じ、意識できるようにしている。12月に入ると冬至に向けてホットプレートで焼いたなんきんやゆず茶や、園庭で収穫したぎんなんをいただき、身体を温める作用がある食べ物が身体の中から元気にしてくれること等を知らせている。また、年度によっては園内で収穫したみかんや保護者から頂戴したみかんの皮を天日干しにして「みかん湯」を作り、手足を温める体験をすることがある。「食べた」「体感した」とい

うだけに終わらず、自然への畏敬の念や先人の知恵等を伝えられるよう、反省会や会議において全教員で確認し合っている。

チ 豆まきについて

【現状の説明】

教員は子どもの健やかな成長を願い、邪気や災厄を祓うために行う日本の伝統行事を理解した上で、学年に応じて「節分」の話をし、「豆まき」の意味を園児や保護者に伝えている。邪気を払う厄払いという言葉の意味を、園児たちにわかりやすく伝える一つの方法として、架空のものである鬼を登場させることについては風習に基づき長年続けているが、鬼の出現が園児に与える影響について毎年話し合っている。鬼の登場については、園児の恐怖心を煽るものではなく、良い緊張感を与えるものにしたいと考えており、人間の力ではどうすることもできないものに対し、祈りや願いを持って向かうならわしであることを大切にしている。豆まきは豆を投げるのではなく撒くことを意識させて行ない、その後健康を願って年の数より一つ多い豆を食べている。また、各学年で子どもの発達段階に見合った鬼の面を制作し家庭に持ち帰り、家庭でも節分に関心を持たせるようにしている。

【点検・評価と今後の取り組み】

鬼が金棒を突きながら保育室の前にやって来る緊迫感は、園児に良い意味での緊張感を与えていることが子どもの姿から感じられた。豆まきについては、鬼を間近かで見てしまうとこわさで豆を投げつけてしまい、豆を“撒く”ということ子どもに意識させることが難しかったので、来年度は自分の邪気を払うための豆まきであることを園児に分かりやすく伝えるようにする。

ツ ひなまつりについて

【現状の説明】

女の子だけのお祭りではなく、子どもの健やかな成長を願う昔からの伝統行事として行っている。3月3日の「ひなまつり」の集会では、ホールに雛人形を飾り、歌を歌い、保護者の活動である人形劇部やコーラス部による出し物を見て楽しいひとときを過ごす。年度最後の節句となる「ひなまつり」の集会では、園児がしっかりと話を聞き、落ち着いて過ごしている様子は、子どもたちの一年の成長が感じられる。ホールに飾る雛人形は7段飾りの立派なものであるが、雛人形のはじまりである「人型」や「流し雛」等の話を伝え、昔から大人は子どもの成長を願っていることを伝えている。各学年で子どもの発達段階に見合ったお雛様の制作をし、桃の花と一緒にしばらく保育室に飾り楽しめるようにしている。教員は昔の人が自然に感謝と畏敬の念を忘れることなく生活の中に息づかせていた風習に込められた真意を理解し、健康に過ごせる毎日が何ものにも代えがたい幸せであることを意識すると共に、園児や保護者に伝えられるよう努めている。

テ お別れ会について

【現状の説明】

お別れ会は年長児がたくさんの思い出と共に新たな出発の期待が持てるよう、年少・年中児は春には一つ進級する喜びが感じられるよう考えている。卒園式の前日に行い、年少・年中児が先に着席し、年長児を拍手で迎え会が始まる。年少・年中児にはこれまで年長児に世話になったことを思

い出し、感謝やお祝いの気持ちを数日前から考え、歌や呼びかけで年長児に伝えている。年中児にはこれまでを振り返って事柄だけを並べるだけでなくその時の気持ちに働きかけ、自分たちで呼びかけの言葉を考えしっかり伝えるよう指導している。会の終わりには年中児が手作りのペンダントを年長児にプレゼントしている。年長児は、年長児ならではの取り組みである遊びや歌等を披露する。また、教員からは新年度に向けての気持ちに相応しい話を選び、人形劇にして見せている。最後は、年少・年中児・教員たちが作る花道を年長児が通って退場し、会を終えている。

【点検・評価と今後の取り組み】

年長児のお別れ会での姿は、これまでの年長児の集大成である。年少・年中児の前で披露するその姿は、卒園を前にした年長児の自信と喜びが感じられる。それは、普段の園生活の積み重ねから培われたものである。また、年長児の自信に満ちたその姿を、年少・年中児は大きくなることへの憧れを持って見ており、一つ大きくなることを楽しみにしている。年少・年中児は年長児への感謝やお礼の気持ちを伝えることで卒園を祝う気持ちに繋げている。

ト 卒園式について

【現状の説明】

卒園式は、保護者が卒園児席を囲むような形で着席し、卒園児は自分たちで作った花のアーチをくぐり入場し始まる。園長は一人ひとりに卒園証書を授与し握手を交わし、卒園児はリボンで巻かれた卒園証書を高く掲げ式場内をゆっくりと歩いて席に戻る。年少・年中児は式の後半に参加し、改まった雰囲気の中、卒園児の姿を間近に見、言葉掛けや歌を歌うことで卒園を祝う気持ちと卒園児の姿に憧れの気持ちが持てるようにしている。卒園児は小学校1年生になることを楽しみに、これから新たな世界に希望を持って一歩踏み出す思いを歌で表現し、保護者の温かい拍手に送られて式を終える。ホールの式終了後に年中児は年長児への保育室へ出向き、お祝いの花束を届けている。

【点検・評価と今後の取り組み】

約1時間にわたる式となるが、年長児は姿勢をただし、気持ちを集中して話を聞こうとする姿が見られる。その姿は堂々と自信に満ちてとても嬉しそうである。そのような年長児の姿は、卒園式の練習（3回程度）を重ねた結果ではなく、これまでの保育の積み重ねである。教員は園生活のすべてがこの日に繋がることを意識して日々保育にあたっている。年少・年中児においては、大切なお祝いの式であることを理解し、年長児への感謝の気持ちを持って、お祝いに参加できている。

ナ 誕生日のお祝いについて

【現状の説明】

一人ひとりの生まれた日を大切に考え、誕生日当日（当日にできない場合はできるだけ近い日）に誕生児の保護者1名に来てもらい、クラスの園児と共にお祝いのひとときを持っている。学年によってお祝いの持ち方は異なるが、保護者に参加してもらうことで、生まれた時の様子やその時の親の気持ちを保護者自身、あるいは担任を通じて聞くことにより祝福されて生まれてきたことを知り、元気に誕生日（当日）を迎えられたことへの感謝の気持ちを育めるように考えている。また、祝ってもらい喜びだけでなく、友だちの誕生日のお祝いを楽しみにする気持ちが持てるよう働きかけている。年中・年長児は誕生児へのプレゼント作りを通して誕生児への思いを表現し、年少児はお祝いの時に歌を歌い拍手でお祝いの気持ちを伝えている。そして担任からは冠を、園長からは手

作りの誕生日カードをお祝いの言葉と共に贈っている。

【点検・評価と今後の取り組み】

お祝いを重ねていくことで自分の誕生日だけでなく、友だちの誕生日のお祝いを楽しみにする気持ちが持てるようになってきている。お祝いの進め方や言葉掛け等の問題もさることながら、保護者にも子どもの成長を感じ、喜んでもらえるようなお祝いにするためには、それまでのクラス作りや、更には教員自身の人としての内面の成長が問われる。常にそのことを意識しながら保育するよう努めていることを会議等で確認している。

(3) 園児募集について

【現状の説明】

園児募集については、入園前年の7月からホームページ上で「入園概要について」を掲出し、8月末に朝日新聞と読売新聞、リビング吹田（タウン誌）に折込チラシを入れて告知した。入園希望者対象の園内参観日を前年度より増やし、平成26年度入園対象児に向け「遊びませんか？（在園児と園庭で遊ぶ）」を11回実施した。また、2歳児親子教室参加者にも2回の園庭開放を行なった。

9月初めに入園説明会（園内施設参観）を開き、説明会後に家族単位でアンケートの協力をお願いしており、その結果を分析することによって本園に求める関心事項等を把握するように努めている。また、例年同様翌週に保育参観を3日間設けたが、今年度の保育参観時には在園・卒園児の保護者数名の協力を得て、参加者の質問に対応してもらった。なお、平成26年度の新入園児数に関しては、報告書作成段階において定員を満たしていない状況ではあるが、昨年度との同時期比較すると2割増えている。

【点検・評価と今後の取り組み】

前年度初めて実施した入園対象児向けの「遊びませんか？」が好評であり、その後の入園の動機づけになったとのアンケート結果から、今年度は11回開催（昨年度は2回開催）し、合計23名を受け入れることができた。さらに、「2歳児親子教室」も30名の定員を増やし、45名に上限を設定し実施した。

また、今年度は入園説明会を土曜日に開催したため、父親の姿も多くみられ、昨年54家族に対し今年は75家族の参加があり、アンケート調査によると「入園を希望する」と答えた人が昨年の倍の44件であった。44件のうち希望理由の記述によれば、25件が教育方針、教育内容に触れており、その他に、自然環境について4件記載されていた。このアンケートの記述のなかで「参加者多数のため、『遊びませんか？』に参加出来なかった」との回答を寄せてくださった方もおられ、開催時期などについて、さらに検討を加えていくこととする。

翌週の保育参観の参観者も昨年を上回り、協力頂いた在園・卒園児保護者に気軽に声を掛ける姿が多く見られた。質問の内容は多岐にわたるが、我が子が集団生活で困難なく過ごせるかという心配や不安が目立ったため、今後の入園説明会においては子育てに関することを交えながら、保育方針や保育内容に繋げて本園の保育をアピールしていきたい。同時に、他園の教育内容と比べて、本園の教育内容に改善の余地があるか否かも引き続き検証を行う。また、引き続き、広告媒体の効果等を含め、園児募集活動を展開していく。

学校関係者評価委員会からの評価結果

〈自己点検・評価の適切性〉

関西大学幼稚園では自己点検・評価の内容を複数に分類し、3年で一巡する形で取り組んできており、2013年度は食育、年間行事、園児募集について行っている。食育は2010年度の保護者を対象としたアンケート結果を踏まえたその後の活動や保護者への働きかけに関する内容、年間行事は前回の保護者アンケート結果から改善した行事を中心に点検している。いずれも保護者アンケートの結果を十分に分析し、保護者にそれを伝え、保護者の協力を仰ぎながら実践している点が高く評価できる。保護者と教員が連携して子どもに関わることが子どもの成長を支え、ひいては子どもの大きな利益につながると思われる。

〈重点的な取り組みの適切性〉

本年度の自己点検・評価は人の生涯にわたる身体づくりにも関わる「食育」と、日々の保育活動の延長線上にあり、子ども一人一人の成長に働きかける「年間行事」である。

2005年に施行された食育基本法は子どもの心身の成長、人格の形成に食育が大きな影響を及ぼすととらえ、食に関する感謝の念や食育における教育者の役割を謳っている。評価報告書にもあるように、本園ではそれを実践する際に、「食育」を幼稚園教育要領にある健康と関連づけて取り組んでおり、法律を単なる理念としてではなく、日々の保育の中で生きるものとして活用している点は注目すべきところである。

子育て相談・発達相談でも偏食に関する相談は年々多くなってきている。経済的に豊かになり、それに伴って食生活が豊かになれば、自己の好みで食べ物を選ぶことができるようになる。好きな物だけを好きなだけ食べるという子どもの頃からの偏食傾向が続けば、成人してからの身体の不調や、場合によっては生活習慣病を引き起こすかもしれない。本園では、そのような長期間にわたる食習慣を幼児期からより望ましい形で作り上げるような関わりがなされ、ほぼすべての子どもが苦手な物でも園では食べられるようになっている。

「年間行事」は二巡目にあたるため、前回の学校評価を活かしたものになっているかを検証し、2011年度から改善した行事を中心に行っている。自己点検・評価は非常に労力を要するため、その年度を取り扱うだけでも大変であるが、単年度に限定した視点で行われるのではなく、過去と比較することで、より良いものにしようという姿勢が表れている。特に2011年度のアンケート結果をもとに、改善状況の把握が必要なものに焦点を当ててアンケート項目に盛り込まれた、5月の節句、健康診断、お月見、親子遠足、休日参観、豆まき等の行事は前回の自己点検・評価時より保護者の評価も高くなっている。これは、全教員が個々の行事の意味を的確に理解して実施することに加えて、その根底に子どもの育ちを豊かにすることを目的として行事を行うという最も肝要な認識を持って取り組んだ結果と評価できる。

〈自己点検の結果を踏まえた改善方策の適切性〉

自己点検・評価はそれを行うことで、その後の教育をより充実したものにすることを目的としている。本年度の自己点検・評価項目は2011年度から二巡目ということもあって、前回との比較を

多く取り入れているため、この間行ってきた教育が漫然としたものではなく、前回よりも一歩も二歩もより望ましい教育に近づいたかを確認する非常に厳しい営みであったと思われる。それを真摯に、厳しい視点で行った全教員に賛辞を贈りたい。

年間行事はどれも子どもの成長に関わる重要なものであるが、入園式、進級式、お別れ会、卒園式のように子どもの心理的側面に深く影響を及ぼす行事をどのように執り行うかは、その後の子どもたちの心の発達に大きく関わるものであろう。入園や進級は子どもにとって喜びであると同時に、評価報告書にあるように、新しい環境への不安や戸惑いもある。また、お別れ会や卒園式のように、成長したからこそ経験しなければならぬ寂しさもある。しかし、それ以上に多くの思い出や新たな出発への期待が持てるような行事になるよう配慮が行き届いており、本園では子どもの心の発達のあり方を理解し、それぞれの子どもの発達段階にあった対応を心掛けていることがよくわかる。

〈学校運営の改善に向けた取り組みの適切性〉

2013年度の入園者が例年になく定員を下回ったことから、本園では「園児募集」を3年間にわたる自己点検・評価の対象にしてきている。

「園児募集」に向けた取り組みとして、入園対象児向けの「遊びませんか？」の開催数増加、2歳児親子教室の定員増員、預かり保育のクラス増設と保育時間延長を実施あるいは次年度に向けて実施予定である。これらは在園児の保護者アンケートや入園説明会参加者等へのアンケートを詳細に分析した結果、取り組むことになったものである。このように、全教員が多くの子どもと保護者に本園の特徴を理解してもらおうという努力を重ねている。

また、園児募集に向けた取り組みには在園児だけではなく卒園児の保護者の協力もみられ、本園が六十有余年の歴史を持つ幼稚園であり、ここを巣立った方々や関係の方々の園を思う気持ちがあふれていることを物語っている。それは本園が、保育サービスよりも保育そのものを大切に、熟考して、子どものために良いと思うことは少しずつ変えていくが、子ども中心という保育の本質はずっと変わらないことへの魅力に由来すると思われる。

【学校関係者評価委員会委員名簿】

氏名	所属及び役職
北村 由美	関西大学大学院 心理学研究科 教授 ※評価結果取りまとめ執筆者
岩田 真美	関西大学幼稚園 はぐくみの会 会長
味園 貴子	関西大学幼稚園 卒園生保護者
井藤 葉月	関西大学幼稚園 卒園生保護者
石倉 千世	関西大学幼稚園 園長

「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園
園長 石倉 千世

2005年7月、「食育基本法」が施行された。それは近年、食生活を巡る環境が大きく変化し、「食」を取り巻く様々な問題が生じていることが背景となっている。この法律は命の源であり、生活の基となる「食」の問題を広く社会全体の問題として捉え、国を挙げて「食育」を推進するために制定されたものである。本園では「食育基本法」を踏まえた上で、幼稚園教育要領「第二章 健康」の内容の取扱いに「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切なことを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心を持ったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」と記されていることを受け、「食育基本法」施行以来食育の取り組みに対する認識を高めており、今年度の学校評価項目にあげることとした。作成した巻末の表（資料①）にはどの項目も具体的な働きかけを記載しているが、それらを通して最も大切にしたいことは「食」に対する心を育むということである。「食」に感謝する心を育むことが、幼稚園教育要領にある子ども自らが“進んで食べようとする気持ち”を育てることにつながると考え、食事を作る人・作物を育てる人への感謝の気持ちや園庭の実のなる木等自然の恵みに対する感謝の気持ちを「食」を通して育むことを大切にしている。よって、本園における「食育」とは、「食」を通して健康な心と体を育むことであり、食に関する知識を園児に伝えるという点においては、昔からの食文化における知恵や工夫を伝えることに重点を置いたものであり、飽食の時代といわれている今だからこそご飯一粒を大切にできるよう指導していきたいと考えている。

学校評価への取り組みにおいては、食育について保護者への働きかけに改善すべき点がいくつか明確になっており、次期の評価に向け更に努力したいと考える。

また、年間行事については、本園の教育方針を保護者に理解してもらいやすい項目であるにもかかわらず、C・D評価があることに動揺を隠せないが、真摯に受け止め改善に努めたい。しかしながら改善に向けての策を講じるにもC・D評価の理由については推測の域を出ないため、次年度よりC・D評価には理由を記述してもらうことで保護者との距離を近づけ、対策に繋げたいと考えている。

以上

「食育について」に関して

「食育基本法」を踏まえた上で、本園の食育に関する取り組みと幼稚園教育要領「第二章 健康」の内容の取扱いに記されていることを重ね、適切な働きかけであるか確認する作業の一環として以下の表（資料①）を作成した。

「給食」「弁当」「おやつ」「いただき物」「その他」の5つの観点からまとめ、園児への働きかけを“健康な心と体を作る”という点からマナーを守りきちんと食べる力をつけるための指導面と、“食べ物に興味関心を持つ”という点から旬の食材や栄養面等の食に関する理解を深めることに区分して記載した。

○ 食育について

1 お弁当・給食を通して

子どもへの働きかけ	マナーを知らせ、指導する	お弁当・給食共通	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがいをする ・トイレを済ませておく ・年長児は手伝いを喜んでできるようにする ・「いただきます」「ごちそうさま」をすることでけじめをつける ・食前の歌の意味を知らせる ・お箸、コップ、歯ブラシで遊ばない ・机に椅子を近づけて食べる ・ひじをついて食べない ・口に食べ物を入れて話をしない ・立ち歩かない ・こぼしたらすぐ拾う ・お茶を飲みすぎないようにする ・ご飯とおかずを交互に食べる ・よく噛んで食べる ・よく噛むと、ご飯がおいしくなることを知らせる ・よく噛むと、丈夫な歯になり虫歯の予防になることを知らせる ・残さずきれいに食べる ・嫌いなものを少しでも食べられるようにする ・好き嫌いをせずに何でも食べる ・食べ終わった食器は自分で片づける ・食器を大切に扱う
		お弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・作ってくれた人へ感謝の気持ちをもつ ・お弁当箱に手を添えて食べる ・食べ終わったお弁当箱は自分で片づける
		給食	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は手伝いを喜んでできるようにする ・お箸の正しい持ち方を知らせる ・お茶碗を持って食べる ・お皿に手を添えて食べる ・ご飯粒を集めて残さずきれいに食べる ・おかわりの際には食べきれぬ量にする
	食べ物に興味関心を持たせる	お弁当・給食共通	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食べ物（旬）を知らせる（たけのご飯・さつまいもご飯など） ・給食の食材の名前を知らせる（ひじき・切り干大根など） ・野菜の働きを知らせる（風邪の予防・便通をよくする） ・身体を冷やす野菜、温める野菜を知らせる（夏野菜、冬野菜） ・赤・黄・緑の野菜を知らせる ・いろいろな調理方法があることを知らせる
		お弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当に野菜が入っているか意識させる
		給食	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆は体に良いこと、栄養価が高いことを知らせる ・味噌汁は身体が温まることを知らせる ・4月のメニューである赤飯はお祝いの意味があることを伝える
	親への働きかけ	給食共通・お弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりやクラス懇談会で給食の取り組みや子どもの様子を伝える ・子どもの食べやすいメニューや調理方法を伝える ・赤、黄、緑の食品群の役割等を食育だよりで知らせる ・ゆったりとした雰囲気の中で食事をさせる ・偏食のある場合は工夫するように伝える
		お弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスを考えて作ってもらう
		給食	<ul style="list-style-type: none"> ・はぐくみで給食の取り組みや大切にしていることについて知らせる

2 おやつを通して

月	おやつ	ねらい
5月	年長手作りクッキー	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は初めてのクッキー作りが楽しくできるようにする ・年少・年中児は年長児が作ってくれたクッキーを喜んで頂く ・クッキーを届ける嬉しさ、届けてもらう楽しみを味わう ・クラスみんなでおやつを一緒に食べる楽しさを味わう ・年少・年中児は作ってくれた年長児に感謝の気持ちを言葉で表現する ・材料に興味を持つ
6月	年長手作りクッキー (ごま入り)	<ul style="list-style-type: none"> ・一度経験したことでより楽しみにできるようにする
7月	すいか	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食べ物を知り、季節を感じる
9月	お月見団子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や風習を知り、興味や関心を持つ ・年長児は楽しくお月見団子作りができるようにする ・年少児は初めて年長児の招待を受け接待をしてもらうことを喜ぶ ・年長児は年少・年中児を招き喜んで接待できるようにする ・年少・年中児は年長児が接待している姿に興味を持つ ・年少・年中児は年長児が作ってくれたお月見団子を喜んで頂く ・年少・年中児は作ってくれた年長児に感謝の気持ちを言葉で表現する ・年長児は団子作りや接待する経験を通して年長児としての自覚を深める
11月	野焼きいも	<ul style="list-style-type: none"> ・園でさつまいもを収穫できたことを喜ぶ ・年長児は野焼きいもの手伝いを楽しむ ・みんなで野焼きいもが出来上がるのを楽しみに待つ ・みんなで分け合って食べる楽しさを味わう
12月	おもちつき	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や風習を知り、興味や関心を持つ ・お餅つきを通してもち米がお餅になる過程に興味や関心を持つ ・年長児は餅つきを楽しむ ・年少・年中児は年長児やお父さんが餅つきをしている様子を見て応援する ・つきたてのお餅の温かさや柔らかさを感じる
	ぎんなん	<ul style="list-style-type: none"> ・ぎんなんを食べるまでの過程を知る
	なんきん	<ul style="list-style-type: none"> ・冬至に頂く”ん”のつく食べ物の言い伝えを知り味わって食べる ・担当が”なんきん”を焼く様子を見て楽しみに待つ
	柚子茶	<ul style="list-style-type: none"> ・冬至の文化や風習を知り、興味や関心を持つ
	年長手作りクッキー (なんきん入り)	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキーになんきんが入っていることで冬至への関心を深める
1月	鏡開き (こぶ・干し柿・ ^{だいたい} 橙) あべかわもち	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や風習を知り、興味や関心を持つ
2月	節分 いり豆	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や風習を知り、興味や関心を持つ ・豆まきを楽しみ、元気に過ごせることを願っていり豆を食べる
3月	年長手作りクッキー (レーズン入り)	<ul style="list-style-type: none"> ・年少・年中児は一年間の年長児のおやつ作りを通して、年長児への憧れの気持ちを大きくふくらませる ・年長児は年中児へクッキー作りを伝える ・年中児は次は自分たちが作ることを自覚し楽しみにする

3 いただきもの※を通して

子どもへの働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食べ物を頂くことで、季節を知る ・品種を知る（毛馬きゅうり・みかん・はっさく・夏みかん） ・いただきものの産地を知る ・いただきものは子どもの見える所に置き、興味を持たせる ・いただきものを触ったり、匂って五感に働きかける ・果物ナイフで皮を剥くところを見せる ・皮や種に興味をもたせる ・冬にはみかんの皮を干し、みかん湯にして楽しむ ・みんなで分け合って頂くことで喜びを分かち合う ・頂いた方への感謝の気持ちを持つ
親への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・えんだよりで頂きものがあつたことや、子どもの様子を知らせる

※いただきものの状況

1学期	<p>ジューンベリー、ゆずらうめ、梅、さくらんぼ、スイカ、ミニトマト</p> <p>梨（しんかんせん）、ブルーベリー</p>
2学期	<p>栗・ざくろ、柿、ピーマン、さつまいも、枝豆、みかん、りんご</p> <p>温州みかん、干し柿、きんかん、柚子、梨</p>
3学期	<p>晩白柚、りんご</p>

4 その他の場面を通して

子どもへの働きかけ	朝のあつまりの中で	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんをしっかりと食べることで一日元気に過ごせるという話を聞き、朝ごはんの大切さを知る ・おやつのお話を聞き、おやつのお話について注意を促す ・年長児が作るおやつについての話を聞き、年長児は作る楽しみを知り、年少・年中児は年長児へのあこがれの気持ちを持ち、楽しみに待つ ・湯ざましは喉の渇きをいやすことを知る ・冷たいものを食べすぎたり、飲みすぎたりしないようにする ・冬至に”なんきん”を食べる意味を知る ・お正月の伝統文化を知る（おせち料理・お雑煮・鏡餅）
	年長児の取り組みを通して	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は育てている野菜（トマト、さつまいも、小松菜）に興味を持ち、変化に気づく ・年少・年中児は年長児が育てている野菜の世話をしている様子を知り、大きく育つことを楽しみにする ・収穫したものをみんなで分け合って食べる楽しみを味わう
	園庭の実のなる木を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ジューンベリー、木いちご、ブルーベリー、やまもも、ざくろ、梅、冬みかん、柿、イチヨウ（ぎんなん）の木に実が出来ることを知る ・花が咲く季節を知る ・葉の色の変化や落葉することを知る ・収穫時期を知り、みんなで分け合って食べる楽しみを味わう

2013年度 関西大学幼稚園 実施対象者別アンケート結果比較一覧表

保護者用アンケート 設問		教員用アンケート 設問				無記入						
A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	A	B	C	D
1. お子さんは朝食を誰と食べることが多いですか。	27.4%	46.4%	20.7%	3.9%	1.7%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2. 朝食の主な主食は何ですか。	32.4%	33.0%	17.3%	15.1%	0.6%							
3. 朝食は三度の食事の内の大事な一食であることを意識していますか。	51.4%	41.9%	6.7%	0.0%	0.0%							
4. お子さんは夕食を誰と食べることが多いですか。	39.1%	55.9%	3.4%	0.6%	1.1%							
5. 何時頃、食べ始めますか。	22.5%	62.9%	11.8%	2.8%	0.0%							
6. お子さんは偏食がありますか。	43.0%	57.0%	0.0%	0.0%	0.0%							
7. 偏食があると答えた方のお答えください。幼稚園でとる昼食(給食・お弁当)を通してお子さんは苦手なものを食べられるようになりましたか。	45.5%	50.6%	3.9%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8. 幼稚園でとる昼食(給食・お弁当)を通してお子さんがマナーを意識していると感じますか。	29.6%	48.0%	22.3%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9. お子さんはお弁当を楽しみにしていますか。	73.7%	24.0%	1.7%	0.0%	0.6%							
10. お弁当は栄養のバランスや色どりなどを考えて作られていますか。	34.1%	61.5%	3.9%	0.6%	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11. お子さんは給食を楽しんでいますか。	50.8%	41.3%	7.3%	0.0%	0.6%							
12. 主にどのようなものをおやつにしていますか。	文中資料に転記											
13. 幼稚園ではクッキーの他に毎月団子や冬至の南京など季節や行事を意識したおやつにしていますか。ご家庭ではおやつの内容を季節や行事を意識し与えることがありますか。	12.8%	48.0%	38.5%	0.6%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
14. お子さんは幼稚園でおやつを食べること、あるいは作ることを楽しみにしていますか。	79.3%	20.1%	0.6%	0.0%	0.0%							
15. 幼稚園で年長児が野菜(トマト、さつまいもなど)を育てていることを知っていますか。	60.9%	35.2%	3.9%	0.0%	0.0%							
16. 収穫した野菜(トマト、さつまいもなど)をみんなでいただいたことを知っていますか。	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%	0.0%							
17. 幼稚園あるいは家庭で、野菜を育てることによってお子さんが野菜に興味を持ったと思いますか。	48.0%	43.6%	7.8%	0.0%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18. お子さんから幼稚園にある実の木の話を聞いたことがあること、話を聞いたことがありますか。	68.2%	27.9%	2.8%	0.6%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19. 祖父の方などが育てられた野菜や果物を園児にいただくことがありますか、その話を聞いたことがありますか。	55.3%	36.9%	6.7%	0.6%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20. 食育だより「いただきます」を発行していますが、子育てにおいて参考になっていますか。	60.3%	37.4%	1.7%	0.0%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
21. お子さんが幼稚園で「食育」を受けていると思いますか。	50.8%	47.5%	1.1%	0.0%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
22. 「食育」について幼稚園から保護者の方への働きかけを感じますか。	54.2%	42.5%	2.8%	0.0%	0.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
23-1. 年中、年長児の保護者の方におたずねします。進級式に参加しましたか。	96.9%	2.3%	0.0%	0.0%	0.8%							
23-2. 進級式に参加された方のお答えください。ホールでの進級式や保育室でのお子さんの姿から、去年に比べ成長を感じることができましたか。	66.7%	31.7%	0.8%	0.0%	0.8%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
24. 幼稚園では子どもの健やかな成長を願う5月の節句の話をし、鯉のぼりやかぶとを制作するなどの取り組みをしましたが、ご家庭でも意識して過ごせましたか。	40.2%	44.7%	10.1%	0.0%	5.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25-1. 休日参観に参加しましたか。	87.2%	8.9%	0.0%	0.0%	3.9%							
25-2. 休日参観に参加された方のお答えください。休日参観は楽しめる内容でしたか。	67.9%	28.4%	0.0%	0.0%	3.7%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
26. 休日参観はお子さんの園での様子を知る機会になりましたか。	54.0%	40.5%	1.2%	0.0%	4.3%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2013年度関西大学幼稚園 学年別保護者アンケート結果一覧表

設問	A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	無記入	
1. お子さんは朝食を誰と食べる人が多いですか。	全体	27.4%	46.4%	20.7%	3.9%	1.7%	28.6%	42.9%	24.5%	4.1%	0.0%
2. 朝食の主な主食は何ですか。(注)	全体	32.4%	33.0%	17.3%	15.1%	0.6%	26.5%	50.0%	19.1%	4.4%	0.0%
3. 朝食は三度の食事の内の大事な一食であることと意識していますか。	全体	51.4%	41.9%	6.7%	0.0%	0.0%	27.4%	45.2%	19.4%	3.2%	4.8%
4. お子さんは夕食を誰と食べる人が多いですか。	全体	39.1%	55.9%	3.4%	0.6%	1.1%	36.7%	30.6%	20.4%	12.2%	0.0%
5. 何時頃、食べ始めますか。	全体	22.5%	62.9%	11.8%	2.8%	0.0%	27.9%	35.3%	19.1%	14.7%	0.0%
6. お子さんは偏食がありますか。	全体	43.0%	57.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.9%	32.3%	12.9%	17.7%	1.6%
7. 偏食があると答えた方のお答えください。幼稚園でとる昼食(給食・お弁当)を通してお子さんは苦手なものを食べられるようになりましたか。	全体	45.5%	50.6%	3.9%	0.0%	0.0%	55.1%	32.7%	12.2%	0.0%	0.0%
8. 幼稚園でとる昼食(給食・お弁当)を通してお子さんがマナーを意識していると感じますか。	全体	29.6%	48.0%	22.3%	0.0%	0.0%	50.0%	45.6%	4.4%	0.0%	0.0%
9. お子さんはお弁当を楽しみにしていますか。	全体	73.7%	24.0%	1.7%	0.0%	0.6%	50.0%	57.1%	26.5%	0.0%	0.0%
10. お弁当は栄養のバランスや色どりを考えて作るようにしていますか。	全体	34.1%	61.5%	3.9%	0.6%	0.0%	48.3%	51.7%	25.0%	0.0%	0.0%
11. お子さんは給食を楽しみにしていますか。	全体	50.8%	41.3%	7.3%	0.0%	0.6%	57.1%	42.9%	16.1%	0.0%	0.0%

設問		A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	無記入	
23-2.	進級式に参加された方のみお答えください。ホールでの進級式や保育室でのお子さんの姿から、去年に比べ成長を感じることができましたか。	66.7%	31.7%	0.8%	0.0%	0.8%	年少 年中 年長	64.1% 69.4% 30.6%	34.4% 29.0% 18.4%	1.6% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 1.6% 18.4%
24.	幼稚園では子どもの健やかな成長を願い5月の節句の話をし、鯉のぼりやかぶとを制作するなどの取り組みをしましたが、ご家庭でも意識して過ごせましたか。	40.2%	44.7%	10.1%	0.0%	5.0%	年少 年中 年長	42.6% 45.2% 81.6%	50.0% 48.4% 4.1%	7.4% 6.5% 0.0%	0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 14.3%
25-1.	休日参観に参加しましたか。	87.2%	8.9%	0.0%	0.0%	3.9%	年少 年中 年長	86.8% 91.9% 58.7%	13.2% 8.1% 28.3%	0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 13.0%
25-2.	休日参観に参加された方のみお答えください。休日参観は楽しめる内容でしたか。	67.9%	28.4%	0.0%	0.0%	3.7%	年少 年中 年長	67.8% 75.4% 40.4%	32.2% 24.6% 42.6%	0.0% 0.0% 2.1%	0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 14.9%
26.	休日参観はお子さんの園での様子を知る機会になりましたか。	54.0%	40.5%	1.2%	0.0%	4.3%	年少 年中 年長	55.9% 63.2%	44.1% 35.1%	0.0% 1.8%	0.0% 0.0%	0.0% 0.0%

(注)設問2については、選択肢が上記以外に「その他()」を設定しているため、除外して算出している。したがって、設問2の構成比率の合計値は100.0%にならない。
「D その他()」の内容は、「おもち」や「ご飯とパンを交互に食べる」という記述があった。

以下の質問について該当するものに○印をつけてください。

<食育に関しておたずねします。>

1. お子さんは朝食を誰と食べる人が多いですか。
 - ア 家族そろって食べる
 - イ 家族（父母・祖父母）の誰かと食べる
 - ウ 兄弟姉妹の子どもだけで食べる
 - エ 一人で食べる
2. 朝食の主な主食は何ですか。
 - ア ご飯をよく食べる
 - イ パンをよく食べる
 - ウ どちらかといえばご飯を食べる
 - エ どちらかといえばパンを食べる
 - オ その他（ ）
3. 朝食は三度の食事の内の大事な一食であることを意識していますか。
 - A 十分意識している
 - B 意識している
 - C あまり意識していない
 - D まったく意識していない
4. お子さんは夕食を誰と食べる人が多いですか。
 - ア 家族そろって食べる
 - イ 家族（父母・祖父母）の誰かと食べる
 - ウ 兄弟姉妹の子どもだけで食べる
 - エ 一人で食べる
5. 何時頃、食べ始めますか。
 - ア 18時までに
 - イ 18時～19時
 - ウ 19時～19時30分
 - エ 19時30分以降
6. お子さんは偏食がありますか。
 - ア はい
 - イ いいえ
7. 偏食があると答えた方のみお答えください。

幼稚園でとる昼食（給食・お弁当）を通してお子さんは苦手なものを食べられるようになりましたか。

 - A 幼稚園で食べられるようになり、家庭でも食べるようになった。
 - B 幼稚園で食べられるようになったが、家庭ではなかなか食べない。
 - C 幼稚園・家庭において、あまり変化が見られない
 - D 幼稚園・家庭において、まったく変化が見られない
8. 幼稚園でとる昼食（給食・お弁当）を通してお子さんがマナーを意識していると感じますか。
 - A 十分感じる
 - B 感じる
 - C あまり感じない
 - D まったく感じない
9. お子さんはお弁当を楽しみにしていますか。
 - A とても楽しみにしている
 - B 楽しみにしている
 - C あまり楽しみにしていない

D まったく楽しみにしていない

10. お弁当は栄養のバランスや色どりなどを考えて作るようにしていますか。

A 十分に意識して作っている

B 意識するようにしている

C あまり意識して作っていない

D まったく意識せず作っている

11. お子さんは給食を楽しみにしていますか。

A とても楽しみにしている

B 楽しみにしている

C あまり楽しみにしていない

D まったく楽しみにしていない

12. 主にどのようなものをおやつにしていますか。

主なもの2つに○をつけてください。

- (
- ・洋菓子 (ケーキ・クッキー・ドーナツなど)
 - ・和菓子 (饅頭・だんご・わらびもち・おはぎなど)
 - ・スナック菓子 ・チョコレート ・ガム ・飴 ・グミ
 - ・手作りのもの ・果物 ・牛乳やジュースなどの飲み物
 - ・その他 ()
-)

13. 幼稚園ではクッキーの他にお月見団子や冬至の南京など季節や行事を意識したおやつにしていますが、ご家庭ではおやつの内容を季節や行事を意識し与えることがありますか。

A 十分に意識している

B 意識している

C あまり意識していない

D まったく意識していない

14. お子さんは幼稚園でおやつを食べること、あるいは作ることを楽しみにしていますか。

A 大変楽しみにしている

B 楽しみにしている

C あまり楽しみにしていない

D まったく楽しみにしていない

15. 幼稚園で年長児が野菜(トマト、さつまいもなど)を育てていることを知っていますか。

A よく知っている

B 知っている

C あまり知らない

D まったく知らない

16. 収穫した野菜(トマト、さつまいもなど)をみんなでいただいたことを知っていますか。

A よく知っている

B 知っている

- C あまり知らない
- D まったく知らない

17. 幼稚園あるいは家庭で、野菜を育てることによってお子さんが野菜に興味を持ったと思いますか。

- A 大変そう思う
- B まあまあそう思う
- C あまりそう思わない
- D まったくそう思わない

18. お子さんから幼稚園にある実のなる木の話あるいはそれを食べたことの話聞いたことがありますか。

- A よく聞いた
- B 聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D まったく聞いたことがない

19. 祖父母の方などが育てられた野菜や果物を園児にいただくことがありますか、その話を聞いたことがありますか。

- A よく聞いた
- B 聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D まったく聞いたことがない

20. 食育だより「いただきます」を発行していますが、子育てにおいて参考になっていますか。

- A 大変なっている
- B まあまあなっている
- C ほとんどなっていない
- D 全くなっていない

B. C. Dと答えた方におたずねします。

「食育だより」に希望されることをご記入ください。

[]

21. お子さんが幼稚園で「食育」を受けていると思いますか。

- A 十分に受けていると思う
- B 受けていると思う
- C あまり受けていないように思う
- D まったく受けていないように思う

22. 「食育」について幼稚園から保護者の方への働きかけを感じますか。

- A 十分感じる
- B 感じる
- C あまり感じない
- D まったく感じない

<行事についておたずねします。>

1. 年中、年長児の保護者の方におたずねします。

進級式に参加しましたか。

ア はい イ いいえ

2. 進級式に参加された方のみお答えください。

ホールでの進級式や保育室でのお子さんの姿から、去年に比べ成長を感じることができましたか。

A 大変感じることができた

B 感じることができた

C あまり感じられなかった

D まったく感じることができなかった

3. 幼稚園では子どもの健やかな成長を願い5月の節句の話をし、鯉のぼりやかぶとを制作するなどの取り組みをしましたが、ご家庭でも意識して過ごせましたか。

A 大変意識して過ごした

B まあまあ意識して過ごした

C あまり意識して過ごしていない

D まったく意識して過ごしていない

4. 休日参観に参加しましたか。

ア はい イ いいえ

5. 休日参観に参加された方のみお答えください。

休日参観は楽しめる内容でしたか。

A とても楽しめた

B 楽しめた

C あまり楽しめなかった

D まったく楽しめなかった

休日参観はお子さんの園での様子を知る機会になりましたか。

A 十分知る機会になった

B 知る機会になった

C あまり知る機会になっていない

D まったく知る機会になっていない

以上

ご協力ありがとうございました。